

## 絵本をとおして、親子のふれあい

子どもは〈絵本〉が大好きです。大人の膝に座って、ぬくもりと安心感を感じながら、大人とおしゃべりや“おはなしの世界”を楽しんだり、言葉を覚えたりします。

〈絵本〉は子どもの身近にある、“大好きなもの”の一つです。大好きな〈絵本〉を、大人と一緒に読んだり、見たりしてくれるだけでうれしくなります。一緒になって驚き、

喜び、笑い、感動することで、ふれあいも深まります。子どもと一緒に〈絵本〉を読むだけでも、親子のふれあいになります。

〈絵本〉は子どもだけでなく、大人も楽しめるものです。〈絵本〉の言葉を感じるままに読んでください。親子で〈絵本〉の世界を楽しんでほしいと思います。

### ● “わくわく”する気持ちを大切に読む●

子どもは、「よんで、よんで」と〈絵本〉を持ってきて、一緒に絵本を見ながら大人の語りに耳をかたむけます。言葉のひとつひとつに反応して、クルクルと表情をかえ、大人の語りに心はずませて聞き入ります。

〈絵本〉のなかには、いろいろな世界があります。子どもと〈絵本〉を読むときに、声に強弱をつけて喜怒哀楽の感情をはっきりと伝えるだけでも、イメージが広がります。子どもは想像力を豊かにして、気持ちを“わくわく”させながら聞いています。この“わくわく”が大切です。

おもちゃや遊び道具がなくても、たっぶり遊ぶことができます。〈絵本〉のなかに出てくる“動き”をまねして、親子でふれあい遊びを楽しむこともできます。

### ● 〈絵本〉のなかの“動き”をまねて遊ぶ●

乳幼児は、大人の語りかける言葉を聞いて言葉を覚えていきます。〈絵本〉には、言葉がいっぱいあふれています。親子でリズムや音の響きがある〈絵本〉をとおして、言葉の楽しさを感じてもらいました。

『だるまさんが』（かがくいひろし：さく／ブロンズ新社）という絵本があります。“だるまさんがころんだ”という遊びを題材にしたものです。だるまさんのリズムカルな動きと、「だるまさんが——」の言葉のあとに、何が出てくるのかわくわくさせられます。

読み語りだけでなく、絵本のなかに出てくる“動き”を、親子で一緒にまねして、ふれあいを楽しむことにしました。

最初は、ふつうの読み語りと同じように、一緒に絵本を見ながら読みます。“だるまさん”の絵（動きの変化）を見て楽しみます。

2回目は、〈絵本〉のなかの“だるまさん”の“動き”にあわせて、子どもたちに“動き”を感じさせるように、言葉にリズムをつけて読みます。絵と言葉から、“動き”を感じとってもらいます。

3回目は、〈絵本〉の世界を抜け出して、言葉から感じとったものをそれぞれに、体を動かして表現します。絵本の“だるまさん”と同じ



絵本の“動き”をまねてみます



イラスト：いがき けいこ

動きをしなくてもよいことを伝え、語りにあわせて親子で自由に動きます。

はじめのうちは、“だるまさん”と同じ動きで、「どてっ」「びろーん」などの言葉にあわせた動きを楽しんでいた親子も、繰り返し読んでいるうちに、動きもダイナミックになります。絵本から“だるまさん”が飛び出して、それぞれの親子の“だるまさん”を楽しんでいました。

大切なのは子どもだけでなく、大人も絵本の言葉を感じとり、一緒になって楽しむことです。何度も何度も読んでいるうちに、子どもが絵本のなかの言葉を口にしながら、“だるまさん”の動きを楽しむようになっていきます。

### たくさんの〈絵本〉を読んで聞かせてほしい

乳幼児期に、大人が語りかける言葉を聞く楽しさを感じると、今度は言葉でやりとりをするのが楽しくなってきます。言葉を覚えていくと、だんだんと物語の絵本が楽しめるようになります。

大きくなると、物語の世界をイメージする力ができて、想像力がはぐくまれていきます。登場人物と一体になって物語に入りこんでいくこの時期は、あこがれの登場人物になるのがいちばんです。お面や登場人物が持っている魅力ある道具を作って、登場人物になりきって物語の世界を楽しんでいきます。工作の材料は、家庭にあるいらなくなったもの（新聞紙やラップのしんなど）。

大きくなった子どもにとって、大人と共有できる時間はなによりもうれしく、絵本をとおしての広がりをみせた“親子のふれあい”です。

乳幼児期の子どもは、〈絵本〉の読み聞かせをとおして、さまざまなことを感じて受け止めていきます。たくさん〈絵本〉を読んで聞かせてほしいと思います。